

手話言語条例に基づき、手話を町内に広めるための具体的な取り組みを定めた
「伊奈町手話施策推進方針」 を策定しました。この方針には、
これからの町の方針や具体的な取り組みが5つに分けて明記されています。

1 手話の普及およびろう者に対する理解に関すること

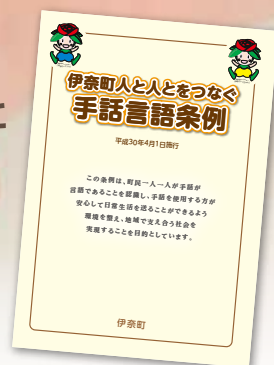
一人でも多くの方に手話に関心を持っていただき、手話を理解し親しむことで、ろう者をはじめとする聴覚障がい者に対する理解を深めようとする項目です。

【具体的な取り組み】

- 手話言語条例パンフレットを配布する
- 手話の会と連携・協力し、手話の出前講座などを行う など

福祉課で発行した
パンフレット▶

広報いな11月号とともに全戸配布しました



2 手話による情報の取得および手話を使用しやすい環境づくりに関すること

聴覚障がい者が安心して暮らせるように、日常生活や社会生活においてコミュニケーション手段として手話が使える環境づくりを進めようとする項目です。

【具体的な取り組み】

- 役場窓口対応職員等を対象に、手話研修を開催する
- 耳マークの普及を進める など

4 手話通訳者の養成、確保その他の手話による意思疎通支援に関すること

聴覚障がい者が日常生活に必要な情報を得やすくするため、コミュニケーションの支援を行う手話通訳者の派遣などに努めようとする項目です。

【具体的な取り組み】

- 手話通訳者養成のため、社会福祉協議会と連携して手話講習会を開催する
- 埼玉県聴覚障害者協会と連携し、手話通訳者の派遣事業を進める など

3 学校教育の場等における手話に触れる機会の提供に関すること

子どものころから手話に親しんでもらい、障がいのある方の気持ちの理解やお互いを尊重する思いやりの心を育てようとする項目です。

【具体的な取り組み】

- 未就学児童が通う各施設で手話に親しむ機会を提供する
- 町内小・中学校の児童生徒と聴覚障がい者との交流機会を提供する など

5 その他町長が必要と認めること

手や指を動かしたりすることで健康づくりや介護予防につなげることを目的として、高齢者が手話に触れる機会を提供しようとする項目です。

【具体的な取り組み】

- 老人福祉センターやいきいきサロンなどの高齢者が集う場所で手話に触れる機会を提供する
- 介護通所事業所（デイサービス）に、利用者が手話に触れる機会を設けるように協力を依頼する など

手話言語条例・推進方針の全文は
町ホームページをチェックしてください

手話言語条例▶



手話施策推進方針▶



手話への想い「32年の努力がついに実った」

伊奈町手話の会 インタビュー



宮田 みどりさん

会長
山下 國光さん

佐藤 妙子さん

伊奈町手話の会…昭和61年10月31日発足、会員数38名。発足以来、町内外での手話の普及・促進に大きく貢献してきました。毎週水曜日13時30分～、金曜日19時～の定例の勉強会や社会福祉協議会で開催する手話講習会での学習補助などを行っています。手話言語条例の制定にも大きく貢献し、町の手話普及・促進の要ともいえる存在です。

みなさんが手話を学んだきっかけは？



山下さん（以降、「山」と略）「勤めていた会社の青年部主催の手話勉強会に誘われ、その勉強会で学ぶうちに、もっと学びたいと考え、上尾市の手話サークルに入会しました。当時伊奈町には手話サークルはありませんでした。」

宮田さん（以降、「宮」と略）「私が20代のころ、電車の中で聴覚障がい者の方数名が手話で会話しているのを見かけ、それが表情豊かにとても楽しそうで印象的でした。最初は興味を持っただけでしたが、伊奈町に引っ越してきたときに、手話サークル（手話の会）があると知り、入会しました。会で学んでいく中で、耳が聞こえない人たちが差別を受けていることを知り、ろう者の方々と一緒に学んでいきたいと思い、活動を続けてきました。」



佐藤さん（以降、「佐」と略）「伊奈町に引っ越してくる前に、テレビでろう者の両親と健聴者の子ども2人、4人家族のドキュメントを見たことがありました。その家族が手話で会話している姿を見て、なんて素敵な言葉だろうと思いました。」

町に越してきたあと、回覧板でお知らせしていた手話講習会を受講し、手話の会にも通い始めました。」

手話言語条例制定をどう思われますか？

宮「とてもうれしく思います。夢のようです。」

山「そうですね。全国的に自治体が条例を作り始め、障がい者の方への差別は改善されてきていますが、障害や

手話に対する理解はまだまだ足りないと感じていました。そんな中、町に条例ができたことで、理解が広まるのではないかと思います。条例制定後、実際に手話を学びたいと声をかけていただくことも多くなり、効果を実感しました。」

最後に“手話への想い”を聞かせてください

山「昔、障がい者への差別はひどいものがありました。障がい者が自分の家にいることは恥ずかしいという意識のもと、差別用語も頻繁に使われていました。現代では大きく改善されましたが、差別はまだ少し残っているのが現状です。これから健聴者と聴覚障がい者が共生できる世の中にするために、手話を通してこれからも取り組んでいきたいと思っています。」



宮「障害者基本法で手話は言語だと認められましたが、聴覚障がい者への理解はまだ広まっていないのが現状です。今後手話が普及し、いつでもどこでも手話が通じるようになったらいいと思います。また、手話講習会などをきっかけに

積極的に活動する方が一人でも増えたら嬉しいです。」

佐「もちろん手話通訳者の養成も大事ですが、耳が聞こえない人が町に出て、手話が通じるような社会になっていくことが大前提として大切かなと思います。その2つがそろうことを期待していますし、そうなるために今後も活動していきたいです。」

※今回掲載しきれなかった手話の会の方々の熱い想いをいなナビホームページで公開しています。今すぐインタビュー全文をチェック！▶

